

陽の里

発行 平成9年 12月1日



社会福祉法人 新生会
総合ケアセンター
サンビレッジ

No. 63



職場内保育

高木 路子

私は、寮母として出産後も仕事を続けています。それは、職場内に保育園がある為、産前や産後の育児に不安なく働く事ができるからです。

休憩時間には母乳を与える事もでき、体調が急変した場合もすぐかけつける事もできます。又、子ども同士のかかわりだけでなく、お年寄りとのふれ合いがあり、昔の遊びを教えてもらい、はしゃぎまわる子どもの姿、お年寄りも思わず我に帰ったように子ども達と接し笑いが耐えない姿を見て、お互いいろんな刺激があり、とってもよい環境の中にいるように思います。

私のように、産後社会へ出て働きたいと思う女性が多いと思います。乳児保育も可能な、たんぼぼ保育園の存在は私にとっても、社会にとっても大きな意義をもっていると感じます。

たんぽぽ保育園をつくったわけ

理事長 石原 美智子

昭和41年に新生病院に就職をして以来今日まで、サンビレッジ新生苑でも新生メディカルでも、女性の多い職場ばかりを歩いてきました。

新生病院では山奥まで看護婦になってもええそうなるを探しに行った覚えがあります。その頃は中学を卒業して仕事をしながら学校に通うというのが、小さな医療機関の看護婦の採用方法でした。それから結婚に至るまでの数年間を働いてもらい、結婚と同時に退職するというのが殆どでした。そして子育てが終わった時、事情が許せばまた職場復帰をするという、それが当たり前の状態でした。

サンビレッジ新生苑に来ましたら、ここはその当時は子育ての終わった人が中心になった職場でした。しかし、介護がただ寝かせきりにするのではなく、着替えをしたり車椅子に移動したりという大変な

重労働であることや、単に愛情とかが優しさだけでなく介護計画を立てたりコンピュータを使用したりネットワークの必要性が要求される専門性の高いものが求められる時代に向けて学卒の職員も採用するようになりますと、再度、病院と同じように結婚出産という問題が身近に起こるようになりました。

新生メディカルも立ち上げの当時は中年の女性を中心でしたが、今では若い男女がドンドン多くなってきています。

医療機関や介護のように専門性の高いそして女性が占める割合の高い職場の特徴として、私たちはそのキャリアを大切に、また継続する必要性を感じるようになってきました。映画『安心して老いるために』の撮影のために訪れたスウェーデンでは、保育の問題を解決することによって少子化の問題を解決していました。

かつて、日本では女性が働くことは貧しさを意味している時代がありました。今ではより豊かに生きること、自己実現のために働く女性が多くなりました。専門分野で働く女性が増えてきたからです。女性が働くための条件として、結婚後の出産は大きなハンディキャップになっています。どんなに頑張っても出産は男性に変わっても保育は必ずしも女性だけが抱え込まなくても解決する方法があることがスウェーデンでわかったのです。それは、職場の中に保育所を設置することだったのです。少しでも身近なところに、少しでも母子ともに良好な状態を保つために、その解決方法は素晴らしいことだと思います。

もちろん、既存の保育園でもまったく構わなかったのですが、現実に日本の保育園は女性がキャリアを持つためのではなく、未だに貧しさを引きずっているように感じました。その証拠に、保育園に子どもを預ける親は「保育に欠ける子」というプライドの傷つくような書類を提出しなければならぬので、女性を母親としてしかみないので

はなく、病人の命を守る、障害を持つ人を支えるという社会にとつて大切な人材を埋もれさせることの無い様に、優秀な人材を社会の財産にするという発想の保育をしたいと考えました。

最初の園児だった隆男ちゃんは、長野県で成長しています。現在は6人の園児が賑やかに駆け回っています。人見知りをして泣き虫だったチーちゃんも今ではすっかりお姉さんぶりを発揮しています。休憩時間や昼休みになるとお母さんが授乳にやってきます。一年中花の絶えない庭、孔雀や鶏小屋、鯉の泳いでいる池、お年寄りや地域の人々、学生や見学者、ホームで飼っている犬や外から遊びにくる猫など成長するのに大切な多くの環境の中で、今日も彼らは元気に育っています。



たんぽぽ保育園の四季



盆踊り
利用者の作ったゆかたを着て盆踊り。



つくし採り
いっぱい採ってお母さんに晩ご飯のおかずにしてもらいました。



ボディペインティング
体じゅう絵の具だらけになって描きました。

遠足
お母さんも園児も電車に乗って東山動物園へ。



水遊び
気持ちいい！
大好きな水遊び。



いちご狩り
ハウスの中で採れたてのいちごを食べました。



クリスマス会
ひまわりホールで利用者と一緒にクリスマス。

秋の運動会
サンビレッジの利用者と一緒にパン食い競争。



かまくらづくり
雪がたくさん積もり大きな“かまくら”もできました。



いも掘り
サンビレッジ畑で見事なおいもが取れました。

「苑内保育で感じていること」

稲場 由美

たんぼぼ保育園は、現在、三才児一名、二才児二名、一才児二名、○才児一名の計六名の子供が登園してきています。施設内保育ということで子供の体調が悪い時も、すぐ様子を見ることができ、母親も安心して働けるし、母乳で育てている親は授乳時間を決め飲ませに来れるので、わざわざミルクに替える必要がありません。

老人ホームの中の保育園ということでお年寄りと元気に触れ合う場もよく見られます。朝、廊下で会ったときに「おはよう」と挨拶をするとお菓子や飴のお駄賃を貰うこともあります。「有難う」の片言にニッコリと微笑まれホームの朝も和らぎます。また、一才児の聖子ちゃんはとても人見知りが強くて、毎日顔を会わせる寮母さんや職員にもなかなか心を開いてくれない、姿を見ただけで「イヤ」と背を向け保育に抱かれにきます。そんな聖子ちゃんでもお年寄りに対しては、とても柔らかい表情で自分の方から車椅子に近づいて行

ったり、時には右手をさし出して握手を求めに行くこともあります。聖子ちゃんが近づいて行くとお年寄りも目を細められ、満面の笑みがこぼれて、とても微笑ましい光景です。

毎日保育園では、季節にあった遊びを取り入れると共に、自然の中でのびのびと過ごせるよう配慮しています。春にはつくし採りに出かけたり、チューリップやユクサの汁でお絵描きをします。うつとらしい梅雨の時期には少々の雨なら、長靴をはいて傘をさしていつもと違った雰囲気を楽しみます。夏には子供達の大好きな水遊び。皆まっ黒に日焼けしてとても健康的になります。畑のお芋掘りも大好きです。全身泥だらけになりながら掘ったお芋を皆で食べるのはまた格別です。

社会参加と育児を両立したいと頑張る職員の思いを引き受け、安心して介護の仕事が出来るようお願い、今朝も子供達を迎えます。



保育園バザーのお礼

小川 敬子

園の木々も色づき始めました。チラチラと舞い落ちる葉っぱを追いかけて、子どもたちは元気に走り回っています。

しかし、当園は無認可保育園の為、公的な補助金がなく、法人の補助と保育料で運営されているのが現状です。その為、その運営は大変厳しくこのままでは、閉園状態にありました。そこで、私達親と、今後小さい子どもや、孫を持つ職員が、今の職場を離れることなく社会参加できるよう、保育園を続けてほしいという強い願いから、リサイクルバザーをひとつの手段として考えて随時実施し、運営費の足しにしております。

今までご理解を得ました多くの方々に善意のご寄付を頂きましたこと、ここに厚くお礼を申し上げます。また今後ともお力添えをよろしくお願い致します。



一九九八年カレンダー紹介

ひまわりホールでは正面の壁一面に大きな絵を見ることが出来ます。これは、利用者の方が障害を持ちながらも一枚一枚はぎれや、色の紙を用い丹精込めて作り上げた貼絵です。

このほどこの作品がカレンダーになりました、ご希望の方はサンビレッジ新生苑まで御連絡下さい。

1998 CALENDAR



SEASON
サンビレッジの四季

1998 CALENDAR



9							10						
1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28
29	30						29	30					

看護婦・訪問看護婦募集

★詳しくはサンビレッジ新生苑へ連絡下さい。